

心聖会 広報誌

広報こいけ

発行：社会福祉法人 心聖会
 広報委員会
 発行責任者：吉村 優児
 URL <http://www.e-shinseikai.or.jp/>

(法人事務局)
 〒276-0001
 千葉県八千代市小池393
 TEL 047(488)8222 FAX 047(488)8229

経営理念

わたしたちは、利用者の幸せ、利用者の家族の幸せ、地域住民の幸せ、そして、これらを支えることを職員の幸せとして事業に取り組みます。

- ・障害のある人の人格と個性を尊重します。
- ・障害のある人が安心して豊かな地域生活を営めるよう支援します。
- ・障害のある人の喜びや悲しみを共感できる職員であることに努めます。



小池更生園



作山更生園



小池更生園



作山更生園

今年度の秋祭りは・・・?!

はじめに、新型コロナウイルスに罹患した皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、ご利用者、ご家族、日ごろお世話になっていらっしゃる皆様には感染症拡大防止への取り組みにご協力いただき感謝申し上げます。

未だ感染症の終息が見えない中、心聖会恒例の一大イベントである「心聖会秋祭り」はすでにご案内の通り、ご利用者、ご家族、地域の方々、ご協力頂く関係機関等、皆様の安全を考慮し、残念ながら開催を中止させていただきます。ご利用者の皆さんは「秋祭りはいつ?」「やきそば食べようね」と楽しみにされておられ、今年の実施できないことを伝えることが心苦しくもありました。法人全体での秋祭りは中止になってしまいました。が、ご利用者の皆様に少しでも楽しんでいただけたら、各事業所が感染症対策に万全を期した中でそれぞれイベントを実施しました。

国は様々な政策を打ち出し、世の中は新しい生活様式を取り入れながら徐々に元の生活に戻りつつあります。しかし、私たちはご利用者の命を預かる者として、気を緩めるわけにはいきません。感染症対策だけではなく、日々の生活が少しでも豊かになるよう、職員一人ひとりのアイディア、工夫で乗り切っていきたいと思えます。

先を見通しづらい状況ではありますが、この状況が一日でも早く終息へ向かい、平穏な日々を取り戻せるよう心から願っております。

新しい作業棟に期待と希望を膨らませ

作山更生園

施設長 市川 朋未

作山更生園の日中活動は41名のご利用者が5つの作業班に分かれて活動を行っています。本来であれば、生活の拠点となる「暮らしの場」と日中活動の拠点となる「活動の場」を分け、「職任分離」を基本とすることが生活環境として望ましいのですが、作山更生園の現状は暮らしの場と活動の場を分けることができていません。

そこで、作山更生園の敷地内に日中活動の場所を作るため、3年前から崖の擁壁工事を行い作業棟建設予定地の整備を進めてきました。そして、予定通り工事が進んでいけばこの秋から冬にかけて新しい作業棟は完成するはずでした。しかし、新型コロナウイルスの影響で外部の方との接触を減らしていたため、建設業者との打合せもストップしておりました。緊急事態宣言が明けた6月頃、工事に向けての打合せが再び始まり、現在着工に向けて動き出しております。

来年の春頃には新しい作業棟が完成する予定です。

新しい作業棟建設にあたり、今年度は施設内に作業棟整備委員会を立ち上げました。建設計画段階から支援員にも打合せに参加してもらい、作業棟が完成したらどのようなように使用していくのか、実際に使用するご利用者の様子を踏まえた意見を出し合いながら進めています。与えられた新しい作業の場ではなく、ご利用者への思いを込めた作業の場を職員一丸となって創りあげていきたいと考えています。ご利用者も「新しい作業棟はいつできるの？」と心待ちにしている様子です。コロナ禍で制限の多い生活に暗くなりがちですが、そんな時だからこそ希望がもてる話題や楽しい活動を提供し、ご利用者の笑顔を守っていきけるようにこれからも取り組みを続けて参ります。



強度行動障害支援者研修を受講して

小池更生園

高橋 聖貴

まず初めに、強度行動障害の研修に参加する機会を頂いたことに感謝致します。

強度行動障害の概要や知識の基礎を1日目に学び、2日目に実践に繋がる内容をロールプレイで体験させて頂いたことで強度行動障害に対する理解を深めることができました。研修前までは、障害特性への理解が浅く、強度行動障害のあるご利用者の振る舞いばかりに目が行き、なぜそのような行動をされるのだろうかという日々考えさせられていました。研修の中で、行動障害を起ささないようにする取り組みは、障害特性を正確に理解し、適切な環境要因を作り上げるということが大切ということを知れたことで支援に対する考え方が変わりました。ご利用者の言葉や行動には必ず意味があることを忘れず、ご利用者の気持ちに寄り添うような支援者になれるよう日々精進していきます。

作山更生園

鈴木 亮

9月15日と30日の2回に分けて行われた強度行動障害支援者研修に参加させていただきました。初回は実際の支援現場や医療現場の講師の方々による講義、2回目はグループワークによる演習が行われました。特に後者では、「外国語で読まれる指示の通りに動く」といったワークによって、実際に強度行動障害を持つ方々が抱えるストレスの一端を体験したほか、そのストレスを取り除くためにはどのような支援方法が望ましいのか、グループ内で真剣に議論を行いました。ともすれば視野が狭まって問題行動のみに焦点が行ってしまう恐れもある中で、そのご利用者の持つ能力を最大限引き出せるような環境や支援方法を用意することが、ご利用者の権利と安全を両立させるためにいかに重要なのか、身をもって体験することができました。ここで得た知識や経験を、ぜひ実際の現場でも活用しながら、よりご利用者に寄り添った支援を目指してまいります。

小池更生園使い

安全に楽しく

9月5日に、東京城西ロータリークラブより、カートをご寄贈していただきました。誠にありがとうございました。

カートは小池更生園敷地内の移動が難しいご利用者のために使わせていただいています。敷地内の移動にカート、と言うととても長い距離を移動するようになってしまうかもしれませんが、皆さんが生活している生活棟から作業棟まではゆっくり歩いても3分程の距離です。しかしご利用者の中には、高齢化に伴い足腰が弱く急な坂道を歩く事が厳しい方、その時の情緒によって、歩いての移動することが困難な方など、様々な方がいらっ



職員は運転に慣れないのでドキドキです

しゃいます。そのようなご利用者がカートを使用することで少しでも、安全でスムーズに移動ができ、小池更生園内での活動が快適になるように活用させていただきます。

実際にカートに乗ってみたご利用者の声を聞きますと、「いつもの車と違って、風が気持ちいいね」「ゴーカートみたいでおもしろい!」といった声もあり、とても好評な様子です。現在、新型コロナウイルスの影響から、なかなか外出が出来ない状況ですので、気分転換に小池更生園の敷地内をドライブするのも楽しそうですね。

ご利用者の安全な移動や余暇活動などで、カートを使用していきたくて考えています。今後のカートの活躍に乞うご期待です。(片岡)



アトラクションみたいで楽しい♪

新プロジェクト始動!

作業班統括リーダー

鈴木 裕一

小池更生園では、楽しみや意欲張り合いをもって「働く」ことが出来るように、創意工夫を心がけ、ご利用者が輝けることを目標に掲げ支援しています。しかし、コロナ渦において、バザーや地域行事への見合わせが現在でも続き、ご利用者手づくりの商品や作品を販売する機会がなくなっています。また、レジ袋削減の影響により、チラシの封入作業も受注できない状況です。

ご利用者からは活躍する場、地域の方と交流する機会が減り、寂しいという声も聞かれています。ただ、コロナ渦にあっても、みそ加工班で造っている商品を変わずにご利用いただいているお客様方には、大変感謝するとともに、ご利用者の励みになっていることは間違いありません。新たな支援の輪も広がろうとしています。「NPO法人わかっか」様より共同作業のお話を頂き、ご利用者の新たな活動の一つとして、SPOTプロジェクト(八千代市内で出た廃棄物を商品化して販売することで地域の活性化及び地域のことを市民に知ってもらおうという地産地消のプロジェクト)への参加に賛同し、「NPO法人わかっか」様のプロジェクトパートナーとして「紙すき」を始動させていただきます。

今回は、SPOTプロジェクトに快く賛同いただいた市内小中学校の給食牛乳でおなじみの「コーシン乳業株式会社様」に、紙パックを寄付して頂きました。八千代市、NPO法人わかっか、小池更生園で取り組む、新たな商品をお届けできる日をご利用者、職員共に楽しみにしています。皆様には、今後とも変わらぬご支援のほど宜しくお願い致します。



NPO法人わかっかの方と打ち合わせ

作山更生園便り

新規入所ご利用者

山田雅代さん

8月1日より作山更生園に入所されました、山田雅代さんです。入所されてから約3ヶ月が経ちますが、温かな山田さんへご利用者皆さんから慕われており、活動やおやつの時等にはいつも「山田さん、こっちよ！」「おやつ、どうぞ！」と声をかけられています。山田さんもそんな作山更生園の楽しい雰囲気がお好きで、皆さんに対して満面の笑みを見せて下さいます。最近では新しいダンスが自室に届き、大変嬉しそうな表情ですとダンスを見つめていました。



ぱっと花が咲いたような笑顔です！

所属活動班では

一つひとつの動作が丁寧で、あらゆる所作が美しい山田さん。作業はその手先の器用さとじつくりと取り組む忍耐強さを活かして、手芸班に所属となりました。現在は、ビーズ通しや消しゴムのセット、パズルやぬりえに挑戦中です。また、音楽が大好きな方なので、週に1度の音楽活動へ参加されています。楽器演奏やボール運動、盆踊り等積極的に身体を動かしており、山田さんもととても楽しそうなお様子です。



個別課題にも集中して取り組んでいます♪

明るい笑顔が本当に素敵な山田さん。作山更生園でのこれらの活躍がとても楽しみです！

感染症予防研修

平常時から感染予防の基本を確実に実践する為に社会福祉施設におけるCOVID-19感染症予防のポイントを学ぶ研修を実施しました。感染管理認定看護師の方を講師にお招きしてウイルスの特徴や予防方法、施設内での発症疑い・発症した場合での濃厚接触者の方へ個人防護具を使用した支援方法等を学びました。特に今回の研修で印象に残った点は感染症は突然現れるわけではなく、①病原体（感染源）②感染経路 ③宿主、この3つの要因が揃うことで感染すると言われています。それらの要因を一つでも取り除くことが感染拡大防止には重要であり、本研修で得た正確な知識で冷静な対応を実践していきます。



初めての防護服着用やや緊張。

秋祭りのご報告

令和2年9月22日に、秋祭りを行いました。今年度は新型コロナウイルスの影響もあり、法人全体ではなく各事業所ごとの実施となりました。一か所に密集しないよう、当日は盆踊りを含めた4つのゲームが各所に用意され、作業班ごとにそれぞれのゲームを回っていききました。中でも人間ボウリングでは、ご利用者がピン役の職員にバランスボールを投げるという一風変わったゲームで、職員も張り切り、大変な盛り上がりを見せていました。ゲーム大会の後の昼食では、お祭りらしくフランクフルトやからあげ棒等が選び放題！皆さん、1日とても楽しく過ごされました。



バランスボールをピンにぶつけます！

こいけ障害者
支援センター便り

地域とのつながり

「今日、野菜の納品行くの？」
今までにもご紹介させて頂いて
いますが、こいけベジファーム
で収穫した野菜は、同じ八千代
市内にある「やちよ農業交流セ
ンター」へ定期的に納品してい
ます。自分達で育て収穫した野
菜が地域の販売所で売られ、そ
して収入を得る。今年度は新型
コロナウイルスの影響で、ご利用
者の地域交流や社会体験の場
が限られてしまっていますが、
そんな中、やちよ農業交流セン
ターはご利用者が楽しみにされ
ている貴重な場となっております。
また、野菜の販売だけでなくパー



ベキュー
会場もあ
り、そこ
での昼食
外出を、
ご利用者
と職員で
楽しみま
した。

芸術の秋

アート活動はWithコロナだか
らこそ、注目されています。八
千代中央図書館内にて、ポーダ
レスアートギャラリーが開催さ
れ、個性あふれる作品が8・9
月、また八千代文化祭ポスター
は、選外でしたが期間限定で展
示されました。ちばアート祭は、
千葉の名所を職員と話し楽しみ
ながら取り組まれていました。
ダイバーシティ・イン・ジ・アー
ツ公募展はテーマが自由という
こともあり、多くのご利用者の
方が参加されました。こちらは
初の試みの、内部選考会を経て
応募した作品の中から、西浦祐



亀さん『猫の魂』（上段）、大塚
裕太さん『ゆうた』（下段）が二
次選考を通過しました。

こいけホーム

こいけホーム花火大会

9月25日(金)、9月26日(土)、
こいけホームご利用者全員で、
こいけホーム花火大会を実施し
ました。前年度、ご利用者の提
案で始まったこの行事。今年度
も実施の時期を迎えますが、世
間は感染症対策一色：前年度か
ら検討していた、外部への花火
大会の参加も見送りととなり、半
ば諦めムードでした。しかし感
染症対策を行った上でこいけホー
ムで行う花火大会の実施が決定
し、皆さん大喜びでした。三密
を作らないよう、壺番館と式番
館に分かれて行い、開催時間も
30分程度になりました。去年よ
りも短い時間ではありますが



皆さん上手にできていました♪

ご利用者は大喜びでした。
皆さん2年目ともなると花火
もお手の物で、支援員の見守り
の下、安全に花火を行う事が出
来ました。花火を楽しむ事に加
えて、皆が座るベンチを用意し
たり、消火用バケツの用意をし
てくれたり、花火を見ながら楽
しめるようにとラジオを持って
来てくれるご利用者も！「そん
な楽しみ方もあるなあ」と、お
気遣いしたいへんありがたい思
いでした。そのようなご利用者
の心意気もあり、支援員も一緒
に楽しむことができました。
来年度のこの時期はどんな状
況か、中々想像は難しいですが、
その場その場で融通を利かせ、
ご利用者に楽しんで頂ける行事
を提案し一緒に作っていきたい
です。



すっかりお手の物です

法人だより

寄付のお礼

・あいおいニッセイ

同和損保(株) 船橋支店

支店長 西島弘人 様

・株式会社 越田

代表取締役 越田和彦 様

・東京城西

ロータリークラブ 様

・サントリー

ビバレッジサービス(株) 様



移動用カート寄贈式

9月5日、東京城西ロータリークラブ様からご寄贈いただきました「ご利用者移動用カート」の寄贈式を執り行いました。

当日は、会長の深澤様をはじめ8名の会員の皆様にご参加いただき、施設の紹介や感謝状の贈呈などを行いました。寄贈式終了後に実施した作業スペースの見学では、みそ造りやアート活動など、ご利用者の日常生活

について関心を寄せて頂いたことが、とても嬉しく、印象に残っています。

東京城西ロータリークラブ様の奉仕実現に向けた諸活動の中で、当法人の知的障害者福祉に対する理念にご理解を頂き、“心をこめて”寄贈して頂いたこのカートは、安全に、そして大切に活用しなければならぬと身の引き締まる思いです。ご利用者の高齢化も徐々に進んで行く中で、施設内の坂道の移動をスムーズにするカートの導入は、ご利用者の生活をより豊かなものにすると思えます。

東京城西ロータリークラブの皆様、本当にありがとうございます。



寄贈式後皆さんで

小池更生園みそ加工班から

お詫びとお知らせ

平素より、小池更生園みそ加工班のお味噌をご愛顧いただきありがとうございます。

現在、小池更生園では、新型コロナウイルスの影響により、4月よりバザーなど外部での販売活動を見合わせておりましたが、この度、正式に年内中におけるバザーなど外部での販売活動を中止すること致しました。これまで、バザーなどで小池みそをご購入いただいております皆様、並びに、小池更生園のお味噌を楽しみにされていた皆様方には、この場をお借りしてお詫びを申し上げます。

なお、インターネットでのご注文や小池更生園での直接販売、ふなばしメグスパ販売コーナーでの店頭販売は現在も行っておりますので、ご購入を検討されている方や、ご興味を持たれている方は小池更生園までご連絡ください。大変申し訳ございませんが、何卒よろしくお願い申し上げます。

小池更生園

みそ加工班一同

編集後記

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、緊急事態宣言が解除された後も、さまざまなイベントが中止となり、広報担当としては、非常にさみしい時期が続いております。

日常生活そのものも、不要不急の外出を控えている状況が続き、さらに大規模イベントなどの自粛も継続が発表され、これらが必要な措置であり、感染拡大を防止する重要な取り組みであることは理解しつつも、「いつもの生活、いつもの週末はしばらく戻ってこないのだろうか」と、仕方のないことながら悲しい気持ちになってしまいます。

新型コロナウイルス感染の脅威は続いておりますが、この経験が無駄にしないようにご家族や職員、地域や住民が支え合って持続する共生社会へ、コロナ禍での気づきが生きるように、「新しい日常」のありようを考えてみたいのです。また、感染予防を徹底し、この難局を乗り越えられると信じて日々の支援を実践していきます。

季節の変わり目にあたり、皆様方のご健康を祈念申し上げます。「広報こいけ」47号の編集後記といたします。